

The 2 Chome Times 2022年11月号

NO1のプレミアムストリートをめざして



NO294号.

2022年・11月・25日

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス11月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



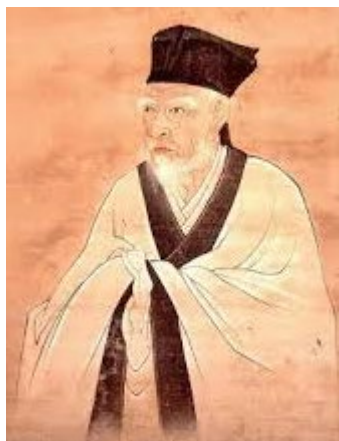
フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★雨森芳洲を訪ねる旅

KOBE三宮・ひと街創り協議会は継続的に“朝鮮通信使”の歴史や意義を勉強していますが、神戸は歴史的に見ても朝鮮との関わりは強く、現在でもアジアパークへの実現に向けた活動が続いています。その朝鮮通信使の朝鮮担当部補佐役「朝鮮方佐役」として大いに活躍した雨森芳洲（アメノモリホウシュウ）の故郷である滋賀県を訪ねる研修旅行が企画されています。旅行のテーマは「朝鮮通信使“朝鮮人街道”をたどる旅 彦根・近江八幡」というものです。雨森 芳洲は寛文8年（1668年）に現在の滋賀県長浜市高月町雨森に町医者の子供として生まれました。延宝7年（1679年）、12歳の頃から京都で医学を学び、元禄2年（1689年）に当時、中継貿易で潤沢な財力を持ち、優秀な人材を探していた対馬藩に仕官し、江戸藩邸勤めを経て元禄5年（1692年）に対馬国へ赴任しました。元禄11年（1698年）、朝鮮方佐役（朝鮮担当部補佐役）を拝命し、江戸幕府将軍の就任祝いとして派遣される朝鮮通信使に、6代・徳川家宣の正徳元年（1711年）と8代・徳川吉宗の享保4年（1719年）の2回、通信使の江戸行に随行しました。対馬藩の文教や朝鮮外交文書の専門職の真文役（記者）となった。篤実な人格で人々の信頼を獲得して、名分や徳業を重視して、熱心に子弟の教育にあたりました。享保19年（1734年）には対馬藩主の側用人に就任、藩政に関する上申書『治要管見』や朝鮮外交心得『交隣提醒』を書きました。宝暦5年（1755年）、対馬厳原日吉の別邸で死去した。享年88。この様に朝鮮外交で大いに活躍した雨森芳洲の歴史的な功績を訪ねる日帰り研修旅行が12月に予定されていますので、またその様子をご報告いたします。 （朝鮮通信使の様子）



★Trick or Treat !!

10月16日に少し早いハロウィンの行列がありました。主役は可愛い仮装をされた子供さん達で大学堂さんの店舗前で「Trick or Treat」と唱えながら大学堂の石田さんと微笑ましいやり取りをされ、お菓子を受け取り、全員ニコリとほほ笑んでいました。この子供さん達はサンプラザ3階にあるお稽古付き一時保育専門施設 “Ray kids school” の子供さん達ですが、授業内容は英会話、ピアノ、リトミック、Jazz キッズ、百玉そろばん等多種多様な教科をそろえており、保育はベテラン保育士が常駐しており食事も神戸市指定の栄養を参考に割烹料理屋で作られ、安全安心の保育をされているそうです。この保育施設にご興味がありましたら下記のホームページをご覧ください。



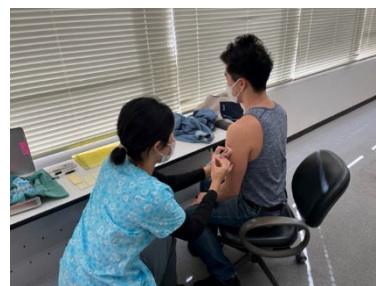
Ray kids school : 神戸市中央区三宮町1丁目8-1 サンプラザ321号 Tel.078-754-9457

<https://ray-kids.com/>

営業時間：8:00~19:00 休日なし

★今年もインフルエンザ予防接種とコロナワクチンの集団接種を行いました

11月10日と14日の二日間に亘ってサンセンタープラザの会議室で2丁目商店街振興組合の主催でインフルエンザ予防接種と、希望者にはコロナワクチン接種が、明芳病院の鄒（ツウオ）先生の御協力が無事に行われました。両方の接種を希望された方には先にコロナワクチンを接種した後に体調の変化がないか確認した約15分後にインフルエンザ予防接種が行われました。もちろん体調を確認するという意味もありましたが、ワクチンの種類を絶対に間違えてはいけませんので、これを防ぐ意味もあっての事です。インフルエンザ予防接種が合計で99名、コロナワクチンのみ接種された方が3名、両方を接種された方が17名という結果でした。まず鄒先生に御礼申し上げると共に、現場でお手伝いをして頂いたボランティアの方々にも深くお礼申し上げます。今後ともよろしくお願いたします。

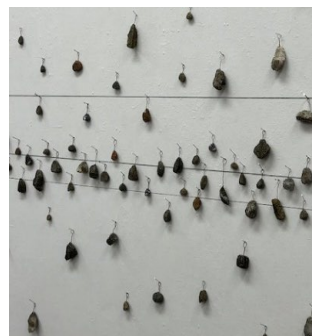


★山口さとこさん個展

アートストリートでは第8作目として2013年に収蔵した山口牧生先生の作品「條痕のある石」がセン



ター街2丁目に彩を添えています。その山口先生の御令嬢で彫刻家の山口さとこ先生の個展が10月17日から30日迄、栄町通にある栄町ビルディング3Fであり、お祝いを兼ねて初日に会場を訪れました。作品のタイトルは「アイコンタクト」だそうです。写真では少し見づらいですが、白い壁のキャンパスに数多くの飾りがピンで留められ、壁面から数十cm離れた空間に横に糸が数本張られています。この糸が張られて



いる高さは丁度先生の目線の高さに当たり、左から右に張られた糸は時間の経過を表しているのだそうです。さとこ先生は「観られる方がそれぞれの感性で作品を楽しんで解釈して頂ければ」と仰っておられました。目線の高さに張られている糸の辺りに飾りが集中していることから、恥ずかしながら「一つ一つの飾りが、先生が経験なされてきた出来事のように感じられるのですが」とお伝えすると、「その解釈も嬉しいです」と仰って頂きました。山口先生は「Michi Garden～庭に息づく石彫群～」と呼ばれる、一つの作品と捉えるべき庭を運営されています。亀岡にありますので、是非足を運んで頂き、京都の晩秋を楽しみながらご散策下さい。



Michi Garden

Michi Garden：〒621-0122 京都府亀岡市西別院町万願寺大堂 21-67

★編集後記

街のプロジェクトの一環の中で、センター街2丁目の久利理事長にお話しをお伺いし、それを本にまとめ、皆様とその貴重な体験や考え方を共有しようという企画が進んでいます。第1回目は「街とアート」についてお伺いし、2回目となる今回は「商売に対する考え方」といった少し大げさに表現すればその「哲学」をお聞きしました。多くのエピソードや考え方はどれも大変興味深いものでしたが、「これは耳が痛い」と感じた例え話がありました。漁師の方が荒天で漁に出れず、出来の悪い漁師は昼間からお酒を飲み、普通の漁師は漁で使う網の手入れをし、出来る漁師は山に植樹をするなど、山の環境に目を配るというものでした。山からの栄養素が川を下り、海に流れ込み、プランクトンが増え、結果的にその海は豊かになるというのは最近では何度となく耳にしたことがあります。自分が漁師だったとして、果たしてどの範疇に入るのか、全く自信が持てなかったからです。目の前の儲け話や快樂に現を抜かし、未来を見越した活動を進めて行く気構えがなければ未来は無いということです。来月は第3回目となりますが、そのお話の内容がどういったものになるのか今から楽しみです。

美しい街 共に歩む ビルメンテナンス

つるかめ管財株式会社 078-371-3589

